

東北 VALUE SIGHT 山形



株式会社まちづくり鶴岡 代表取締役
小林 好雄 (こばやし・よしお)

1953年、鶴岡市生まれ。1975年庄内銀行入行。秘書室長、東京事務所長、酒田中央支店長、執行役員地域企画部長、常務執行役米沢中央支店長を歴任。現在、地域開発本部理事・庄内価値開発研究会担当。2009年12月より株式会社まちづくり鶴岡代表取締役に就任。
株式会社まちづくり鶴岡
〒997-0028 山形県鶴岡市山王町8-15
TEL 0235-35-1221・FAX 0235-22-8144
<http://www.machikine.co.jp/>

民間主導によるまちづくりを進めている株式会社まちづくり鶴岡が、鶴岡市の中心市街地活性化のための中核事業として、このほど、映画館「鶴岡まちなかキネマ」をオープンさせた。この映画館は、新たな人の流れをつくる仕掛けとして、既存の工場を再利用して建てられたものである。さまざまな可能性を秘めたこの映画館の今後の展開に期待したい。

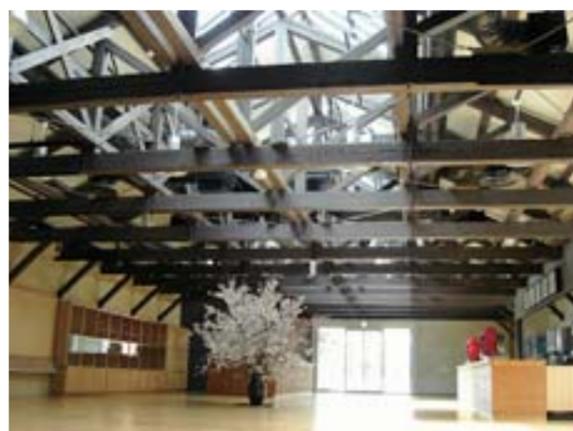
映画館を 足がかりに 市民が集まる魅力的な 中心市街地を創造する

「中心市街地活性化」への取り組み

株式会社まちづくり鶴岡は、平成19年7月10日に鶴岡市内の32事業所（商工会議所を含む）の出資により設立された、完全民間のまちづくりのための会社である。現在は今年2月の増資により、68の事業所、団体、個人と、さらに多くの方々から賛同いただき、支えられている。

当社は、鶴岡市の「中心市街地活性化」のための事業を行うことが大きな目的である。将来にわたる継続的な事業として、中心市街地の活性化に関連するあらゆるものが事業につながるものと考えられる。しかし、原則的に「人を集める仕掛け」や「人を集める拠点づくり」によるまちの活性化が目標であり、一つの企業や個店ではできない仕組みづくりを先導する役割であると認識している。

当面の事業は、地域住民と市外からの来訪者の両面をターゲットとして展開する集客機能として「まちなか映画館等整備事業（松文産業工場跡地整備事業）」を実施した。施設名称は「鶴岡まちなかキネマ（略称：まちキネ）」、平成22年5月22日に開業している。



建物のイメージを創る象徴的なエントランスホール

る。当社が取り組む当初計画の中では、基幹的位置づけにある事業である。

ではなぜ「映画館」だったのかというと、理由は大きくは四つである。

第一に、「楽しみがある」ということである。医療機関や行政機関に行くのとは違い、目的が「娯楽」であるという点である。

第二に、近年の藤沢周平作品の映画化やアカデミー賞受賞を契機にブームとなった「おくりびと」、庄内映画村による多くのロケ撮影作品など、映画における庄内の評価も高まり、映画が市民にとってより身近になったことである。そして市内で映画が楽しめるように市民からの渴望する声が多かったことである。

第三に、最も幅広いターゲットを相手にできるという点である。小さなお子さんからご高齢の方まで年齢性別を問わず来ていただける可能性を持っている施設が映画館である。また、次々作品が変われば、リピート客も生まれる。もう少し言うと、一度足を運ぶと二度目がないような観光施設や特定の年齢層しか利用しないような施設とは違うという観点である。

第四に、商業だけでは人を集められなくなっているという現実である。物は飽和し、物販に対する消費自体が低迷する中で、品揃え、大規模店化、低価格など郊外大型店舗自体がシェアの奪い合いの中で生き残りを模索する時代に、中心市街地で同じ土俵に上がって競争できるとは考えにくいからである。したがって、事業のねらいは、「映画機能」による集客拠点の形成から周辺商店街との新たな人の流れをつくる仕掛けづくりであると考えている。

- ①集客施設として、「映画館（複数館）」等の設置により、まちの中で楽しく過ごしてもらう場を提供し、これまで中心市街地に来街しなかった顧客の取り込みを行うとともに、商店街との回遊性を高める新たな販促等の仕掛けを設ける。
- ②施設を活用した多様な企画・イベント等を通して、中心市街地に人が集まる仕掛けをつくることによって、隣接する商店街への波及効果をもたらす。
- ③集客施設の駐車場を整備し、隣接する商店街に不足する来客向け駐車場の補完機能を担う。
また、事業の特徴として、環境に配慮した再開発と、市民を巻き込んだ企画・運営の2点が挙げられる。

「環境に配慮した再開発」-現状の建物を活かす計画

地球環境問題への対応や持続可能な社会の実現に向け、今あるものをうまく利用し続けるストック型社会への転換が求められており、また個性と魅力ある鶴岡中心部をつくるためには、地域の歴史・記憶を継承しながらまちづくりを行うことが不可欠であると考えられる。以上の認識に基づき、既存の木造工場2棟を解体することなく映画館に再生するという方法を選択した。

整備する施設は、松文産業が工場として利用していた建物であり、特に、戦前から鶴岡の経済を支えてきた繊維産業にとって、昭和初期の建築と言われる木造工場は、市内中心部に残された「歴史的産業遺産」であると認識できる。昭和7年（1932年）、大泉機業場を譲り受け創設された松文産業鶴岡工場は、最盛期には従業員が約400名に上る鶴岡の絹織物産

業を支えた代表的な事業所であり、工場の建物は、戦前の近代産業遺産としても貴重なもので、6間（約10.8m）という長大な陸梁には、現在ではほとんど入手困難と思われる「一本ものの杉材」が用いられており、特徴的な木造の屋根裏の小屋組みは、天井を張らずにあらわにしたことで、建物の持つ魅力を十分に引き出すことができた。

●映画館

4つのスクリーンで合計437席
キネマ1（165席）、キネマ2（152席）、キネマ3（80席）、キネマ4（40席）

●飲食店（1店舗）

●駐車場122台

●敷地面積：約10,500㎡（約3,170坪）

●建築物の構造・規模

木造1階建2棟 合計1,521㎡（約460坪）

市民を巻き込む企画運営

庄内地区の映画館は、鶴岡市に隣接する三川町にシネマコンプレックスがあるが、いわゆるシネコンと同じ考え方で施設をつくることは考えていない。シニア向けの良作を紹介することや、高校生に支持される作品など、地域性を考慮した、市民に支持される映画館を目指している。その選定には、鑑賞したい映画を検討する鑑賞者の組織を設置して、市民参加型の作品選定も実施する予定である。このように映画館の企画運営に市民に参加してもらうことで、よりニーズに合致した作品の用意やプログラムの提供が可能となるのであり、この点が当計画における大きな2つ目の特徴といえる。

木のぬくもりあふれる、映画を中心とした文化施設により、中心市街地に新たなにぎわいを創出したい。